きょうの天気

	降水確率	気温
朝	0 %	高 15℃
昼	0 %	低 10℃
晩	0 %	

（区内予想）北の風後南の風やや強く

あす
東部
中部
西部

社会部東京ニュースデスク　〒100-8505　東京都千代田区内幸町2-1-4
電話:03-6910-2260　FAX:03-3595-6917　Eメール:shakai@tokyo-np.co.jp

したまち支局
電話:03-3844-2215
FAX:03-5827-7470
Eメール:sitamati@tokyo-np.co.jp

立川支局
電話:042-524-0061
FAX:042-524-0063
Eメール:tama@tokyo-np.co.jp

通信局・部
武蔵野 0422-43-2134
八王子 042-656-2313
町　田 042-524-0061

購読のお申し込み
0120-026-999
配達・集金お問い合わせ
03-6910-2556
広告のご用命
03-6910-2489

諸願祈願
鹿野山神野寺
☎0439（37）2351

都心

福島・塙町の農産物 販売支援

食欲、芸術の季節は深まり、冬の足音が近づく。東日本大震災や福島第一原発事故の被災地との絆も深まっている。福島県塙町が東京聖栄大（葛飾区）と連携し、JR新小岩駅北口に開いたアンテナ店「ダリちゃんショップ」が人気だ。農産物の新鮮さとおいしさに行列もできる。関係者は実り豊かな明日を信じ、店に希望を託す。（村松権主麿）

JR新小岩駅前

店は七月にオープン。火、金、土曜の午前十一時～午後五時に営業する。間口二㍍の店内に一袋百円のキュウリや白菜といった野菜、店名の由来にもなった町の花のダリア、菊、漬物も並ぶ。

鈴木公雄店長（六）ら三人が朝早くに塙町を出発し、トラックで運んでくる品々だ。

東京聖栄大の学生は授業の合間にレジに立ち「ありがとうございました」と声をかける。吉田光一専任講師（四七）とゼミの学生ら約二十人。四年の戸枝舞華さん（二二）は「お客さんや塙町の人と話せて楽しく、勉強になる」と楽しそうだ。

町と葛飾区が災害援助協定を結ぶ縁で、昨年の大学祭で町の物産展を開き、町との協力関係が生まれた。教員や学生らは今年二月、町内の道の駅を見学。陳列や包装、味などの改善を提案した。

町の担当者は「単価が高く、冬でも出せる加工品を増やしたい。都会で売れるものを大学に考えてもらい、それを道の駅でも売りたい」と期待する。

原発事故以降、販売拠点だった「道の駅」の顧客は減少。町は放射性物質の検査器を導入し、作物ごとに全農家を検査しているが、現実は厳しい。町によると、売り上げは前年度比二割減。今も観光バスの来店は減ったままという。

アンテナ店は売り上げから運送費などを引くとやや赤字になる。しかし、鈴木店長は「店があと二、三軒あれば効率も上がり、採算が取れる」と見据える。当初、年内で閉店予定だったが、町はできれば継続し、増やすことも検討している。

大学側から、ダリアの球根の酢漬けやきんぴら、シュークリームの皮にそば粉を練り込んだ「そばシュー」などの提案を受け、町は加工業者や販売店を探している。

昼ごろにお客さんが並ぶダリちゃんショップ＝葛飾区で

震災被災地に思いを寄せて…

岩手・釜石に毛糸の帽子

毛糸の帽子に温かな気持ちも編み込む―。荒川区の傾聴ボランティア「ダンボの会」は、手編みの帽子を震災被災地に贈る。区役所に飾られていた帽子は15日に取り外され、今月末から岩手県釜石市へ行く聖学院大（埼玉県上尾市）の学生ボランティアに託す。（竹上順子）

岩手県釜石市に贈られる「ダンボの会」有志の手編みの帽子＝荒川区役所で

荒川区の傾聴ボランティアが手編み

ダンボの会は十年前に発足。普段は約七十人の会員が、一人暮らしの高齢者や障害のある人の家を訪れ、じっくりと話を聞いたり、傾聴サロンを開いたりしている。

昨年の大震災直後、会員から「被災地でじっくりと話を聞いてあげたい」との声が上がった。しかし交通手段を確保できず断念。代わりに「家庭に眠る余り毛糸で帽子を編もう」と、帽子とマフラー約二百個を編み、区のボランティアバスで釜石市へ行った会員が被災者へ手渡した。

ことしも区民から寄付された毛糸などを使い、約百五十個を編み上げた。聖学院大の阿久戸光晴学長が区内に住む縁で、現地の仮設住宅への配布を頼んだ。

ダンボの会の大住恒子会長（七〇）は「海沿いの地域はもう寒くなっていると思う。ちょっとでも暖かさを感じてもらえたらうれしい」と話す。

宮城県石巻市の中学に支援物資

中央区立日本橋中

中央区立日本橋中学校のPTA役員のOB会は、東日本大震災で被災した宮城県石巻市の中学に支援物資を贈ることを決めた。区は昨年度、区立の佃中と久松小の教員各一人を、石巻市の小中学校に派遣。この縁が支援に結びついた。

日本橋浜町の相撲部屋「荒汐部屋」で十五日に開かれたOB会定例会で、元PTA会長の鈴木ゆかさんは「ずっと被災地のことが気にかかっていた。いまも仮設校舎の中学に、必要としているものを贈りたい」とあいさつ。鈴木さんは荒汐部屋のおかみさんだ。OB会は定例会の参加費の一部を支援物資の購入に充てる。

石巻の四つの中学校が、仮設校舎や他校での授業を余儀なくされているという。